

日本国外務省記録文書 (マイクロフィルム版)

この文書は、終戦直後の連合軍の本土進駐、軍政、占領下における憲法制定過程など、従来秘密文書としてあつかわれていたものである。この秘密文書の公開にあたっては新聞にも報道され、よく知られている通りである。今回受入れたものはマイクロフィルム版で、連合軍との間の往復文書49リール、「Press-Release」綴23リール、占領

報告9リール、を始めとして、全118リールというぼう大な文書である。特に、新憲法制定など我国の運命を決定する過程は従来明らかにされていなかったが、この文書はこのような秘密とされていたものを明らかにするもので、戦後の混乱期の政治、外交史の研究にとって欠くことのできない資料である。

1975年農業センサス農業集落カード (マイクロフィッシュ版)

「1970年世界農林業センサス農業集落カード」は既に本館に受け入れられ、利用に供されているが、今度、これに引き続き標記資料が受け入れられた。前者は、1960、65、70の3年次の農林業のセンサス結果を農業集落という単位毎に集計したものであるが、後者も同様に、各項目毎に1960、70、75の15年間の動向がわかるように編成され、

農林統計協会から刊行されたものである。

このマイクロフィッシュ版は「1975年農業センサス農業集落索引」と「1975年農業センサス農業集落カード」から構成されており、前者の索引には、市町村別索引と農業集落索引がある。なお、このカードの利用の手引として「1975年農業センサス農業集落カード利用のしおり」がある。

— 講演会 —

図書館学・情報科学講演会

日本学術振興会と British Council の共催で、わが国の図書館学・情報科学の発展に資するために英国におけるその分野の事業の発展に大きな貢献をした図書館専門家を招き、箱根において、昭和53年5月10日(水)～13日(土)の4日間にわたり「日英図書館学・情報科学セミナー」が開催されたが、この後引き続き近畿地区国公立大学図書館協議会の主催で英国側代表を招き、京都大学を会場として薬学部記念講堂において5月16日(火)三講師により標記講演会が開催され、近畿以西の国・公・私立大学の図書館長・図書館職員及び図書館関係者約130名が参加し、盛会のうちに終了した。

講演者及び演題

D. J. Urquhart 博士 (ロボロー大学及びシェフィールド大学客員教授)

図書館と研究者

J. Gray氏 (英国国立図書館研究開発部長)
大学・研究図書館における研究開発

J. Stirling氏 (エクセター大学図書館長)

大学・研究図書館におけるコンピューターの利用

なお、この後三講師を囲んで懇談会及び懇親会が催され、なごやかな雰囲気の中にも活発な意見が交換され、友好を深めることができた。

— 大学図書館界の動き —

近畿地区国公立大学図書館協議会

○図書館施設研究集会：4月4日(火)同志社女子大学図書館の施設研修を行った。同館の敷地は

キャンパス内で最も美しい緑の庭園場所であったが、芝生の景観も復活させ京都市指定の美観地区